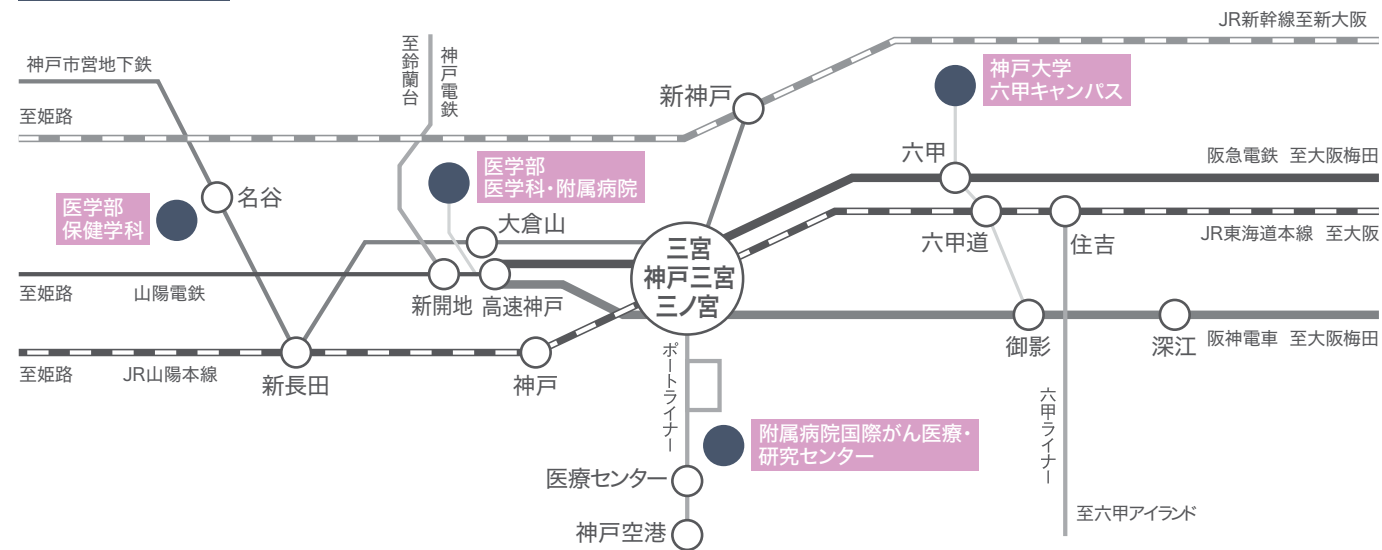


Access アクセス

主要路線図



交通アクセス



■電車利用

JR「神戸」駅下車 徒歩約15分
神戸高速鉄道「高速神戸」駅下車 徒歩約13分
神戸市営地下鉄「大倉山」駅下車 徒歩約5分

■バス利用

JR「神戸」駅前より神戸市バス110系統
もしくは112系統に乗車 約5分 「大学病院前」バス停下車

■タクシー利用

JR「神戸」駅前より 約5分
新幹線「新神戸」駅前より 約15分



神戸大学 医学部医学科 <https://www.med.kobe-u.ac.jp>



〒650-0017
神戸市中央区楠町7丁目5番1号 学務課医学科教務学生係
TEL.078-382-5205



Kobe University
School of

Medicine
2024-2025



神戸大学
医学部医学科

いのちと
向き合う



医学科の教育理念

神戸大学は、大学全体として国際性豊かな「研究大学」を指向しています。医学部医学科における教育はもとより、高い倫理観を有し高度な専門的知識・技能を身につけた医師（医療人）を養成することを主たる目的としていますが、本学科の特徴は、それにとどまらず、旺盛なる探究心と創造性を有する「科学者」としての視点を持った医師／医学研究者を育成することを目指している点にあります。この方針に沿って、平成13年度より本学科の大学院講座化（部局化）が施行され、学部と大学院を通した一貫した研究教育指導体制の確立を目指しています。また、広い視野を有し、地域のみならず地球規模で国際的に活躍できる人材の育成を目標としている点も本学科の特徴です。

医学教育

医学は人間の生命と健康を守る学問です。人間を対象とするという点で、医学は他の自然科学と異なり、人文科学的、社会科学的な面をもっています。医学は、多くの科学に根ざし、その科学の成果を人の生命の保持にどのようにとり入れるかを、これを受ける人の立場に立ち誠意とヒューマニズムをもって考えなければなりません。医学にはサイエンス（科学）とアート（技術）の2つの面があるといわれますが、ここでいうアートには倫理的な要素が含まれています。換言すれば、医学は、狭い意味の学問としての医学と、科学的技術としての医術と、道徳的実践としての医道の3つから成り立っていますが、その何れを欠いても完全な医学とはいえません。本学における医学教育は、全学共通授業科目と医学部専門科目（基礎医学・臨床医学）の有機的連携をはかりながら一步一步前進する6年一貫教育の方針をとっています。広く知識を授け、同時に人間を形成する教養の場とするとともに、医の倫理を体得させ、かつ科学的思考過程を養い、旺盛な探究心を有する医師を育成することを教育方針とし、それによって医学教育水準

の向上をはかり、社会の福祉に貢献することを使命としています。

望ましい学生の資質としては、医学は人間を対象とした学問であるので、医学を志す人は単に自然科学の基礎能力だけでなく、人間としての深い教養と人類に貢献することの意義を感じうる豊かな人間性を持ち合わせていることが要求されます。また、現代の医療は個人によって行われることは少なく、むしろ集団への適応性や集団における指導性も重要な資質とされます。

神戸大学 医学部医学科の歴史

医学部の前身は、兵庫県立神戸医科大学であり、その母体は兵庫置県と共に建設された神戸病院である。明治、大正、昭和と県政の歩みの中に幾多の変遷、消長を経て、昭和43年（1968年）3月31日に国への移管が完了し、神戸大学医学部となった。医学部の歴史は、この附属病院の歴史でもあり、遠く150年程前に始まって、現在では関西における医学・医療の中心的役割の一翼を担うようになっている。



1869	神戸病院創立、医学伝習所開設（明治2年、1869年）
1882	県立神戸医学校・薬学校設置（明治15～21年、1882～1888年）
1944	兵庫県立医学専門学校設置（昭和19年、1944年）
1946	兵庫県立医科大学設置（昭和21年、1946年）
1952	兵庫県立神戸医科大学【改称】（昭和27年、1952年）
1958	大学院医学研究科（博士課程）設置（昭和33年、1958年）
1964	神戸大学医学部（医学科）【国立移管】（昭和39年、1964年）
1967	大学院医学研究科（博士課程）【国立移管】（昭和42年、1967年）
1967	附属病院【国立移管】（昭和42年、1967年）
1973	附属動物実験施設設置（昭和48年、1973年）
1979	附属医学研究国際交流センター設置（昭和54年、1979年）
1999	大学院医学系研究科【改称】（平成11年、1999年）
2001	医学科大学院講座化（平成13年、2001年）
2002	附属病院新病棟開院（平成14年、2002年）
2002	医学系研究科バイオメディカルサイエンス専攻（修士課程）設置（平成14年、2002年）
2004	国立大学法人へ移行（平成16年、2004年）
2004	附属医学医療国際交流センター【改組】（平成16年、2004年）
2008	大学院医学研究科【改称】（平成20年、2008年）
2009	医学研究科附属動物実験施設【改称】（平成21年、2009年）
2009	医学研究科附属感染症センター【改組】（平成21年、2009年）
2014	地域医療活性化センター設置（平成26年、2014年）
2017	国際がん医療・研究センター開院（平成29年、2017年）
2023	大学院医学研究科医療創成工学（博士課程）設置（令和5年、2023年）

Kobe University
School of

Medicine

神戸大学 医学部医学科

4つの特長

神戸大学医学部医学科では、「基礎医学研究」、
「地域医療教育」、「基礎臨床融合」、「国際交流」の4つを柱として、
社会に貢献できる医師・医学研究者を養成しています。
より良い医学教育を目指して日々進歩し続けています。



POINT 1 基礎医学研究医養成

本医学科では「基礎・臨床融合による基礎医学研究医養成プログラム」を設置し、6年間の医学教育の中でリサーチマインドを育成する教育プロジェクトを実施しています。医学科1年次から研究に取り組める環境を提供し、大学院との連携も推進しています。医学科4年次終了後に博士課程に進み早期に博士号を取得できるMD-PhDコース、医学部を卒業し初期臨床研修を受けながら大学院で研究を開始できる大学院・早期研究スタートプログラムがあります。



POINT 3 基礎臨床融合

本医学科は、多くの優れた研究者を輩出してきた伝統に基づき、科学者としての視点を持った医師および生命科学・医学研究者、Physician Scientistを育てることを大きな目標にしています。1年次から基礎医学教室に出入りできる環境を用意し、最先端の知見を盛り込んだ充実した基礎医学教育や、基礎医学と臨床医学を融合した科目を通じて、基礎科学の知識や方法論に基づく臨床医学の深い理解を促す教育を行い、研究マインドの醸成を行っています。



POINT 2 地域医療教育

本医学科では、特色ある地域医療教育を提供しています。地域に暮らす住民の生活を支える活動を実践するために、医療、保健、福祉、介護に係る幅広い知識・技能・態度を6年間継続して学修します。内容は、講義：地域医療学、地域医療システム学、行動科学、臨床医学講義（地域医療）と、実習：初期体験臨床実習、早期臨床実習1・2、IPW、地域社会医学実習、臨床実習3（地域医療）で、充実した教育プログラムを経験できます。



POINT 4 国際交流

本医学科では国際的に活躍する優れた医師・医学研究者の育成を目指しております。1～3年次の英語および医学英語教育に加え、5年次でのハワイ臨床英語研修、6年次での海外病院実習（選択）があります。ハワイ臨床英語研修はハワイ大学の学生を交え、英語での問診、プレゼンテーションなどを学びます。本医学科は、海外病院実習（臨床実習3）を推奨・支援しており、多くの学生が欧米・アジアの大学・病院で診療に参加して、国際的な視野に立って医療を学びます。



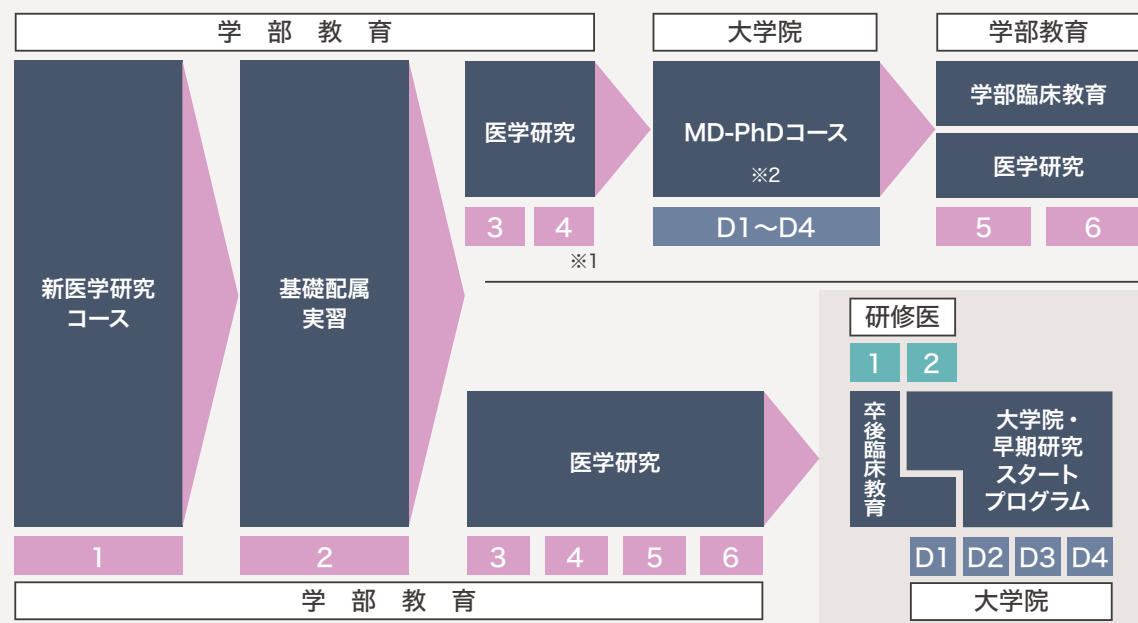


医学部在学中から、最先端の医学研究を体験・実践できる

基礎・臨床融合による基礎医学研究医養成プログラム

基礎医学研究医養成プログラムでは、医学科1年次から6年次まで継続的に研究に取り組める環境を構築しています。1年次の新医学研究コースは、大学入学当初より基礎医学に触れることを目的としています。2年次の基礎配属実習では、希望する基礎医学研究室に4週間通い、研究活動に集中します。3年次以降、研究継続を希望する学生を対象に、3～6年次の選択科目として医学研究を開講します。医学研究では、研究室における研究活動に加え、医学研究交流会、京阪神リトリート、全国の各大学とのリトリート、国内外学会参加支援など、研究に関わる様々な活動をサポートします。卒業時には、継続して医学研究に取り組んでいる6年次の中で、原則1名に対し、神戸大学医学部医学科卒業生最優秀研究賞を授与しています。また、5-6年次には特待生制度を設置し、1学年あたり2名を選抜します。特待生には最大24ヶ月間の給付金を支給し、医学部卒業後は大学院・早期研究スタートプログラムに接続します。

●基礎医学研究医養成のプロセス



※1 5年次での博士課程入学可

※2 医学科休学



先輩からのメッセージ

やりがいやコースの魅力について語ってもらいました。

私はノーベル賞を受賞したiPS細胞やオートファジーの研究を知り、想像を超えた生命現象に好奇心をかきたてられ、入学後まもなく研究室に通い始めました。そこで見聞した議論や研究内容、論文、講演会に刺激を受け、自分も生命の謎に挑みたいと思い、医学部卒業前に大学院で研究し博士号を取得するMD-PhDコースに進み大学院ではストレスによる脳機能変化の解明に取り組みました。神戸大学では「基礎・臨床融合による基礎医学研究医の養成プログラム」により1年次から6年次まで研究に携わることができ、学会に参加したり、学内外の研究熱心な学生と交流する機会が得られます。神戸大学医学部医学科で研究に挑戦し切磋琢磨しましょう。



MD-PhDコース
(学部教育6年)
沼 知里さん

何度でも失敗できる。それが学生で研究することの大きなメリットだと思います。学生は、失敗すればするほど得です。いろんな挑戦をし、いろんな失敗をすることで、自分の興味の方向性が見定まり、将来の選択肢が無限に広がります。そんな挑戦のひとつに「研究」はいかがですか？このプログラムでは、研究のテーマもペースも、学生の主体性に任されています。神戸大学の自由な研究室で、自分の心惹かれるテーマを、とことん追求してみませんか？



(令和4年度卒)
川端 野乃子さん



地域に貢献できる医師を目指す

兵庫県地域特別枠

全国的に医師不足の問題が指摘されている中、兵庫県においても一部の地域や診療科などで、必要な医療体制を確保し、維持していくことが難しい状況が生まれています。このような状況を踏まえ、神戸大学医学部では地域医療に携わる医師の不足という状況の解消に向けた医師養成の取り組みを行っています。

兵庫県からの医師養成数増の依頼を受け、地域に学生(卒業生)を定着させる取り組みとして、平成22年度から、卒業後に勤務する地域を指定した学校推薦型選抜(地域特別枠)を実施し、平成25年度以降の入学定員を10名としています。令和6年5月1日現在の在学者は61名となりました。

本入試では、医師として活躍するに十分な資質と明確な目的意識を持ち、兵庫県の地域医療に貢献したいという強い関心を持ち、地域に定着する意志のある学生の入学を期待しています。



地域医療夏季セミナー

但馬地区・丹波地区・播磨地区など、ひょうごの未来を築く7つの地域に分かれ、住民講話、医療体験実習、訪問診療や地場産業の見学など地域医療の「今」を体感して来ました。



住民、医療関係者、参加学生を交えた意見交換会の風景です。医療にとどまらず、地域の文化や暮らしなど幅広い分野の内容が討論されます。



訪問診療の風景です。実際に患者さん宅を訪問し、訪問診療に必要な技術や知識、さらには患者さんの暮らしを学びます。

兵庫県の医師修学資金の適用

兵庫県は、本学医学部医学科の学生に対して、将来医師として兵庫県内の地域医療に従事しようとする者を対象とした医師修学資金として奨学金を準備しています。学校推薦型選抜(地域特別枠)合格者に対して、この制度が適用されます。一定の期間、兵庫県が指定する地域・病院に勤務した場合は、修学資金の返還が免除されます。奨学金制度の詳細は、学校推薦型選抜(地域特別枠)学生募集要項ならびに兵庫県の兵庫県養成医師制度ホームページを参照してください。



先輩からのメッセージ

やりがいやコースの魅力について語ってもらいました。

地域特別枠で入学した私は地域医療のエキスパートになる事を志して、神戸大学で学んでいます。

入学してから今までに地域医療に関わる経験を多くしてきました。実際に地域に赴き地域を知る「夏季セミナー」や「地域医療体験ツアー」、大学で学んだ医学の知識を活かして地域住民の方に向けた講座を作る「住民健康講話」、ICTを活用したオンラインで行う健康診断「よいとこ健診」などに参加してきました。地域で何が求められているのか、自分たちに何が出るのかを学び、考え、実践してきました。

また地域特別枠は、地域医療について何か学びたい、やってみたいとアクションを起こす時に頼りになる先生や先輩後輩との繋がりがあ恵まれた環境です。

兵庫県の地域医療に貢献したい、地域を支える医師になりたい、熱い志を持つそのあなた！地域医療のエキスパートになるために一緒に学びませんか？神戸大学で待っています。



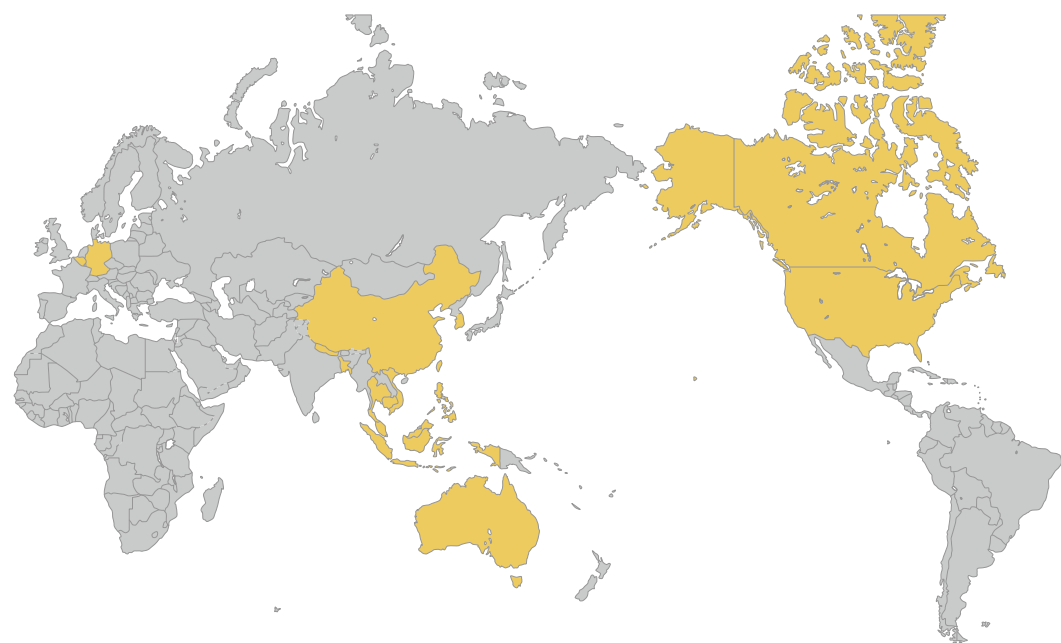
(6年)
川浦 理貴志さん



グローバルな視野で活躍できる優れた医師及び医学研究者の育成のために

国際交流

医学部医学科および医学研究科では外国の教育研究機関との間で学術交流協定、学生交流細則を締結し、共同研究、教員の交流、学生の交流、最新の医学情報の交換を行っています。提携校はアジア（中国、台湾、韓国、インドネシア、タイ、シンガポール、フィリピン、マレーシアなど）、北米（米国、カナダ）、欧州（ドイツ、オーストリア、ベルギー、オセアニア（オーストラリア））にあり、活発な国際交流を行っています。研究留学では米国、カナダ、ドイツ、イギリス、オーストラリアなどの世界最先端の研究室へ留学しています。また、アジア、アフリカから多くの留学生を受け入れています。国際交流を推進するために2017年4月に次世代国際交流センター（Next Generation International Center: NIC）を設置し、学生や教職員の国際交流ならびに外国人留学生の受入の支援活動を行っています。海外留学の費用は日本学生支援機構海外留学支援制度や神緑会（医学部医学科同窓会）、医学部医学科後援会の寄付金から支援しています。



協力大学・病院先

- シンガポール国立大学
- マヒドン大学（シリラー病院、ラマチポティ病院）
- チェンマイ大学
- アイルランガ大学
- インドネシア大学
- ガジャマダ大学
- ティボネゴロ大学
- フィリピン大学マニラ校
- 国際医科大学（マレーシア）
- 中国医科大学
- 台北医学大学
- 高雄医学大学
- グラーツ医科大学
- ピッツバーグ大学
- ハワイ大学
- Hawaii Tokai International College
- ラトガース・ニュージャージー州立大学
- クイーンズランド大学



先輩からのメッセージ

実際に研修に参加した感想を語ってもらいました。

私は8月にハワイで行われた語学研修に参加しました。参加者は全国の大学から集まり、新たな出会いに恵まれた5日間となりました。プログラムの中心は、患者役をして下さるハワイ大学の医学生に問診を取り、現地で働く先生方に症例プレゼンテーションをし、フィードバックを頂くほか、現地のクリニックや病院、医学部を訪問したりと学びも遊びも充実した日々となりました。このような素晴らしい機会を与えて下さった先生方に感謝致します。神戸大学では、日本のみならず海外で活躍する医師とも出会う機会に恵まれます。皆さんの入学を楽しみにしています。



（令和2年度卒）
近藤 杏名さん
語学研修

神戸大学医学部では、6年次に東南アジアやアメリカの病院で2～4週間の実習を行うことができます。現地の病院を見るまでは、「日本とどのような違いがあるのだろう？」と想像することでしょう。しかし意外にも、日本の医療との共通点は多いものです。医療の世界は高度に国際標準化されていることを発見できるはずです。また、海外の医学生は私たちと比べ物にならないほど勉強熱心で意欲的であることにも驚くと思います。彼らの姿勢を見て、皆さんのモチベーションにつなげて下さい。



（令和元年度卒）
大田 聡一郎さん
海外実習

機構図

神戸大学
Kobe University

医学部

■医学科

■医学部教育研究施設

■医学部附属病院

- 医学部附属病院国際がん医療・研究センター
- 診療科
- 中央診療施設等
- 企画・管理部門
- 薬剤部
- 看護部
- 医療技術部

大学院医学研究科

■医科学専攻

■バイオメディカルサイエンス専攻

■医療創成工学専攻

■生理学・細胞生物学講座

膜動態学
細胞生理学
生理学
神経情報伝達学
生体構造解剖学
神経分化・再生
分子脳科学
発生・再生医学

■生化学・分子生物学講座

生化学・シグナル統合学
分子細胞生物学
膜生物学
超微構造生物学
薬理学

■病理学講座

病理学
病理診断学

■微生物感染症学講座

微生物学
臨床ウイルス学
感染制御学
感染治療学
感染症フィールド学
感染・免疫学

■地域社会医学・健康科学講座

医学教育学
地域医療ネットワーク学
AI・デジタルヘルス科学
医療システム学
規制科学
生物統計学
橋渡し科学
医薬食品評価科学
疫学
法医学
地域連携病理学
健康創造推進学
医工探索創成学

■未来医学講座

幹細胞医学
分子疫学
高分解能生体イメージング学
バイオリソース・ヘルスケア統合解析科学
微生物学応用創薬科学
創薬・分子構造医療学

■内科学講座

循環器内科学
消化器内科学
呼吸器内科学
糖尿病・内分泌・総合内科学
腎臓・免疫内科学
脳神経内科学
腫瘍・血液内科学
血液内科学

■内科系講座

放射線医学
放射線腫瘍学
小児科学
皮膚科学
精神医学
臨床検査医学
立証検査医学（シスメックス）
病因病態解析学
医療情報学
先端緩和医療学
病態情報学
薬剤学
システム病態生物学
小児先端医療学
ゲノム医療学

■外科学講座

食道胃腸外科学
肝胆脾外科学
乳腺内分泌外科学
心臓血管外科学
呼吸器外科学
小児外科学
低侵襲外科学
国際がん医療・研究推進学

■外科系講座

整形外科
リハビリテーション機能回復学
脳神経外科学
眼科学
耳鼻咽喉科頭頸部外科学
腎泌尿器科学
産科婦人科学
形成外科学
麻酔科学
口腔外科学
災害・救急医学
小児高度専門外科学

■医療機器学講座

■医学研究科 教育研究施設

目指せ、Physician Scientist

医学科カリキュラム

1年次に全学共通科目と、専門教育の基礎的科目を学びます。2・3年次の基礎医学科目においては、人体の構造と機能、病理・病態を中心に講義・実習で学びます。3年次から並行して臨床医学教育が始まり、講義のほか4年次には問題解決型教育（症候別チュートリアル）や臨床技能実習を行います。4年次後半には、全国統一基準による共用試験CBT（知識）と臨床実習前OSCE（技能・態度）を受験し、合格すれば臨床実習へと進みます。5年次は、大学病院にて診療参加型実習を行い、医師としての知識・技能・態度を修得します。6年次は、選択式の診療参加型臨床実習・海外臨床研修などを通じて、さらに研鑽を積みみます。以上と並行し、6年間に縦断的に、医学研究、データ・サイエンス、医学英語、地域医療を重点的に学びます。最後に臨床実習後OSCE・卒業試験の合格をもって卒業となります。なお、カリキュラムの継続的改革を行っているため、個々の教育プログラムは随時改定しています。



医学科6年間のカリキュラムと卒業後までの流れ



※このカリキュラムは令和6年度入学のものです
※臨床実習1、臨床実習2、臨床実習3は、配当学年に先立って実習を行う場合があります



先輩からのメッセージ

やりがいやコースの魅力について語ってもらいました。

受験勉強は本当に大変です。逃げ出したくなることもあるでしょう。しかし、「高い山ほど良い絶景が待っている」ということわざにもあるように、厳しい受験戦争の先には個性的な仲間と主体的に学ぶ輝かしい大学生活が待っています。入学式の日、会えることを楽しみに待っています。「私、失敗しないので。」の精神で頑張ってください。



（3年）
善野 真太郎さん

医学科では2年次の前期に解剖学の講義が開講されています。教科書でしか見たことの無かった、身体のような構造を実際に目にしたり触れたりすることができ、医学知識を身に付ける貴重な機会をいただきました。そしてその経験から、今考えても、今までの講義の中で解剖学実習が私にとっては最も印象深いものだったと感じています。2年次の初めからそのように本格的に医学を学べる医学科に、皆さんがご入学されることを楽しみにしています。



（5年）
田端 理央奈さん



先輩からのメッセージ

やりがいやコースの魅力について語ってもらいました。

白衣を身につけ、患者さんの話を聞き、聴診器をあてる…医学生の実習といえばこのような光景が思い浮かびませんか？4年次後半になると、皆さんがイメージするような臨床実習が始まります。5年次のBed Side Learning（現：臨床実習1）では、神戸大学医学部附属病院の全診療科を回ります。入院患者さんの診察・上級医へプレゼンテーション・術野での手術参加など、初めての臨床現場で慣れないことも多いですが、熱心な先生と実習班の仲間達に支えられて過ごす10ヶ月間は、かけがえのない思い出となります。6年次の個別計画実習（現：臨床実習3）では、実習先と診療科を自由に選択するため、自分自身の興味のある分野を突き詰めることができるのが神戸大学の特徴です。私はこの機会を利用して、志望科である産婦人科への見識を深め、岩手県で地域実習、そしてシンガポールで海外実習を経験し、医学生としてだけではなく一人間として視野を広げることができました。神戸大学では皆さんのなりたい医師になれるカリキュラムとリソースが準備されています。ここであなたの理想の医師像を考えてみませんか？皆さんにお会いできることを楽しみにしています。



（令和4年度卒）
周 詩佳さん

CAMPUS LIFE

キャンパスライフ

医学科の6年間、勉学・サークル活動・様々な行事に彩られたキャンパスライフが待っています！

1年次では、六甲キャンパスで異なる学部の学生とともに学び、2年次からは医学部附属病院が隣接する楠キャンパスで本格的に医学・医療の専門知識や技術の習得に励みます。

多くの医学生がクラブ・サークル活動にも熱心に取り組み、自己の可能性を再発見できるとともに、医師・医学研究者として大切な人間性の育成にもつながっています。



新入生ガイダンス

各教員からの挨拶をはじめ、初年次セミナーではカリキュラム・学生生活等に関する講義を開講するとともに、医学科生として必要な感染対策や飲酒・薬物使用に関する注意喚起について学びます。また、各クラブ紹介も行います。



白衣授与式

医学部、病院の執行部(諸先輩)から白衣を着せて頂きます。新たな気持ちで、臨床実習に臨みます。医療系大学間共用試験実施評価機構が実施する共用試験(CBT、OSCE)に合格すると、臨床現場へ進むことができます。



●学生課外活動クラブ一覧

■文化系

写真部
軽音楽部
クラシック音楽愛好会
美術部
ESS
東洋医学研究会
小児病棟ボランティア
(Open Future Club)
C.N.F
システム医学研究会

■運動系

ラグビー部
ダンス部
サッカー部
硬式テニス部
ソフトテニス部
バドミントン部
卓球部
ヨット部
空手道部
水泳部
柔道部
剣道部
弓道部

ランニング部
野球部
男子バスケットボール部
男子バレーボール部
女子バスケットボール部
女子バレーボール部
スキー部
ワンダーフォーゲル部
ウインドサーフィン部
ゴルフ部
合気道部
ハンドボール部
フットサル部

●年間スケジュール

4月
●入学式
●新入生ガイダンス
●新入生歓迎会
5月
●健康診断
●神戸大学創立記念日
7月
前期期末試験※
8月
●前期授業終了※
●オープンキャンパス
●西医体
(西日本医科学生総会体育大会)
10月
●後期授業開始※

11月
●大倉山祭
●六甲祭
●解剖体慰霊祭
12月
●冬季休業開始
1月
●冬季休業終了
●後期期末試験※
2月
●後期授業終了※
3月
●学位記授与式

※は学年によって異なります。



大倉山祭

医学科主催の大学祭です。学生・地域の方々の交流や来場者の方々に医学科をより身近に感じてもらうことを目的とし、医学科軽音部などによるステージ企画や骨密度・肌年齢を測定できるブースなど様々な企画を催しています。



学位記授与式

神戸大学の学位記授与式は、ポートアイランドのワールド記念ホールで全学一斉に行われます。その後、医学部医学科生は、医学部長から一人ずつ学位記を手渡されます。また、優秀な成績を修めた学生には、醫王賞を授与します。

医学研究科長・医学部長挨拶

神戸大学医学部医学科は医学教育機関として約80年の歴史を有し、国内外で活躍する優秀な医師/医学研究者を多数輩出してきました。アドミッション・ポリシーに、豊かな人間性、高い倫理観と高度な専門知識・技能を身につけ、そして飽くなき探究心と高い創造力という科学者としての視点を持った医師および医学研究者を育成することをミッションとして掲げています。国際都市神戸に立地する大学として、医学・医療において世界規模の視点（グローバルな視点）を持つことが重要です。また、兵庫県という大きな医療圏の医療を担う国立大学医学部として、地域社会の視点（ローカルな視点）も重要です。医学教育においては、国際性と地域性双方の視点を涵養し、世界・地域の医学・医療に貢献できる医師／医学研究者の育成を積極的に推進しています。神戸大学医学部医学科は、現在、そして未来に亘り、“ひとの命と向き合い、最高の医療を提供する”ことを目標としています。そのために神戸大学から様々な分野でリーダーとして活躍できる優れた医師・医学研究者を育成するために日夜努力を続けています。

本学部医学科が目指す使命や理念を理解して、入学後、勉学や実習に勤しむための基礎知識・能力と旺盛な学修意欲を併せ持つ優れた学生の入学を願っております。入学試験では、一般

選抜（92名）、総合型選抜（10名）、学校推薦型選抜【（地域特別枠）（兵庫県養成医師制度）】（10名）、および学士入学入試【（2年次編入学）】（5名）を実施しています。本学部医学科における特色ある教育カリキュラムとしては、（1）入学後早期からの医学研究教育、（2）国際性の高い医学教育（国際交流）、（3）地域医療教育・研修、（4）基礎臨床融合教育、などをあげることができます。医学研究教育では、全国に先駆け、1961年から学生全員が基礎医学研究の現場を体験できる“基礎配属実習”を導入しており、現在ではその前段階として“新医学研究コース”も用意されています。さらに、基礎医学研究医養成プログラムでは、基礎配属実習後の医学研究を選択することで継続的に研究に取り組むことが出来る環境が整備されています。MD-PhDコースも設けており、5年次から早期に大学院に進学し、研究活動を継続・発展させることができます。また、本学部医学科は、多くの欧米・アジア諸国の第一線の大学・病院と学術交流協定、学生交流細則を締結しており、5年次には臨床英語研修（米国ハワイ）を、6年次には臨床実習3として海外派遣により海外留学を体験し、国際性を涵養する体制が整備されています。加えて、豊富な地域医療体験プログラム（研修・実習・セミナーなど）が用意されており、地域医療の現場を体験し地域医療につ

いての見識を高めることができます。医学部4年生は臨床実習に参加するために共用試験（CBT、OSCE）に合格する必要がありますが、2023年度から共用試験が公的化されました。神戸大学医学部では医学教育のさらなる質の向上を目指して、附属医学教育推進センターを設置し、教育体制の充実化に尽力しています。さらに、神戸大学医学部附属病院は2021年4月に“臨床研究中核病院”に認定されました。今後なお一層、基礎臨床融合教育が活性化され、Physician-Scientistsの育成が加速されるものと期待しています。

新型コロナウイルスのパンデミック、新型コロナウイルス災禍は大きな社会変容をきたし、医学・医療および医学教育において大きな変化がもたらされました。ウィズ・ポストコロナ時代において、医学教育・研究のリモート化・デジタル化は喫緊の課題でしたが、本学部医学科では積極的に整備してきました。文部科学省「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」が採択され、本学部医学科ではデジタル技術の導入による“ハイブリッド型授業”や“ブレンド型授業”を構築・整備し、より安心・安全な教育体制をとっております。

新型コロナウイルス災禍により学生はじめ多くの方々が、心身に大きなストレスを受けました。本学部医学科では、チューター

制度を設け、学生の心のケアにも十分配慮し、学修者本位の教育や学びの質の向上を目指しています。新型コロナウイルスが感染症法5類に移行したことで従来の自由な大学生活が戻ってくるのが期待されています。2023年6月には楠キャンパスに7階建ての新福利厚生棟が完成し、2024年4月にはラーニング・コモンズも新設されました。これからも、高い意欲を持った学生が多数入学し、切磋琢磨してくれることを心待ちにしています。



医学研究科長・医学部長

村上 卓道

医学科長挨拶

21世紀において医学・医療の進歩は目覚ましいものがあります。これまで治療法が全くなかった疾患を治癒させてしまう治療薬が開発され、精細で立体的な画像診断が可能になり、侵襲の少ない外科ロボット手術が進歩し、迅速な遺伝子解析と個別化医療が実現されています。AIによる診断の効率化も近い将来に実現されることでしょう。一方、難治性疾患に苦しむ患者さんが多数存在し、高齢化社会、医療資源の偏在化、世界中を席巻した新型コロナウイルスの流行と後遺症の問題、未知の病原体への対策など、医学上の困難な問題は山積しています。医療が解決しなければならない問題は増加する一方なのです。そんな時代においても、高い理想を持ち、医師・医学研究者を目指す若者に、是非、神戸大学医学部への進学を目指して欲しいと考えています。神戸大学医学部医学科は、次世代の医学、医療の進歩の担い手となる優秀な人材を育てることを願っています。



医学科長

勝二 郁夫

附属病院長挨拶

神戸大学医学部附属病院は明治2年（1869年）に開院した「神戸病院」に始まり、のちに兵庫県立医科大学、そして神戸大学医学部附属病院となり、現在に至っています。開設に際しては、開港して間もない神戸において諸外国に引けをとらない医療を広く提供するため、初代兵庫県知事であった伊藤博文らの呼びかけによって地元の方々から寄付が集められ、神戸らしい洋館の病院が建築され、アメリカ人医師ヴェッダーが初代院長として招かれました。一昨年には創立150周年を迎えた歴史の中で「地域に根差した国際的先進医療の実践」という開院当時の理念が脈々と受け継がれ、発展してきました。

本院は、“①患者中心の医療の実践、②人間性豊かな医療人の育成、③先進医療の開発と推進、④地域医療連携の強化、⑤災害救急医療の拠点活動、⑥医療を通じた国際貢献”を基本理念に掲げ、地域医療構想における高度急性期病院として、また、国の指定による特定機能病院としての役割を果たしています。

現在の診療においてはチーム医療が基本であり、不可欠であることはご存知の通りです。そのチームも、ひとつの診療科の医師チームから複数の診療科の合同チームへ、そして多職種が参加した院内チーム、さらには病院の枠を越えた地域連携へと広がっていき、これからはグローバルな視野も必須です。皆さんが将来にわたって信頼しあえる幅広い医療人の輪を構築できるよう、本院では教育環境の更なる整備を進めています。大きな夢を持ち、意欲に溢れる皆さんと診療をともにする日を心待ちにしています。



附属病院長

眞庭 謙昌